



「遊びの中の演劇」プロジェクトの意義と可能性

－保育現場との連携事業を通して－

キーワード

子どもの表現と理解、ごっこあそびから劇あそびへ、演劇と教育、鑑賞と創造、遊びから創造へ、ドラマシアター、コミュニケーション、演劇教育の開発

研究内容

就学前教育の場における表現活動が人間の「生」に根を据えたもの、いわば、生活の中に埋め込まれた表現行為（遊び）から生成・涵養されるものであることを学生に気づかせることが、今日、保育者養成といった括りの中で「表現」を思索するための命題であると考えます。遊びという言葉は、かなり古い時代から使われてきた言葉で、古くは鎮魂の動作（神事劇舞＝わざおぎ）を意味するものであり、芸能（演劇・舞踊等）の原型をなすものとも言われてきました。こうした古語の遊びの意味を今もそのまま保持しているのが子どもたちのごっこ遊びであり、古代人と同じく精神と行為が合致した祈りとしての充実した体験と言われています。したがって、保育者養成という文脈において表現の授業の目的と方略を考える場合、演劇的表現に関する体験的理解は欠かせぬものであると考えます。そこで本研究では、継続的に保育現場と連携を図ることにより、「遊びの中の演劇」プログラム（劇あそび、朗読劇、人形劇、アニメイム、素劇等による演劇作品の創作と実演）の成果と効用を明らかにするとともに、就学前教育の場における総合表現としての演劇プログラムの開発をすすめています。



相模原市保育ウィーク（2012）にて、参加劇「お人形ビューティー」の実演（構成・演出）



埼玉県加須げんきプラザ「平成22年度親子げんきふれあい体験事業」（2010）にて、人形劇「ブブとパルのものがたり」の実演（シナリオ・演出）

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・横浜発演劇製作プロジェクト：『ど破天港一代』（2006）
- ・相模原市保育ウィークでの保育所との連携事業（2010～）
- ・東京都私立幼稚園・神奈川県私立幼稚園との連携事業（2010～）
- ・劇団かかし座：『アラジンと魔法のランプ』（2004）、『オズの魔法使い』（2013）、『魔法使いのおとぎばなし』（2014）、他公演多数構成・演出
- ・花輪充・後藤圭『子どもに人気！「手ぐみ」あそび』PHP研究所、2011
- ・田澤里喜、花輪充、他『表現の指導法』玉川大学出版部、2014

社会連携・産学連携の可能性

これまで、数多くの幼稚園、保育所、認定こども園や児童館と連携し、子どものための表現活動プロジェクト（劇あそび、朗読劇、人形劇、参加劇等）を実施してきました。今後、図書館等との連携も視野に入れています。